

平成25年度 学校自己評価表

鳥取県立倉吉東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。	今年度の 重点目標	1 主体的学習者の育成 2 キャリア教育の充実 3 積極的な活動の創成 4 広報連携力の強化 5 定時制教育の充実
-------------------	---	--------------	---

年度当初					評価結果		
評価項目	具体的項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	次年度へ向けての改善方策
1. 主体的 学習者の育 成	文武両道 と規律ある 生活による 自立の促進	・生徒自身の学びが内発的なものとなり、日々の学習が緊張感と着落きの中すすめられている。 ・学校生活が品位ある言動に満ち、生徒は環境整備や規律徹底に向けて主体的に行動している。 ・生徒全員が部活動に加入し、学習との両立のなかで、部活動が主体的、積極的な活動となっている。 ・教職員に「率先垂範」の意識が浸透し、協働性のある指導ができる。	・自ら計画的に進んで学びを深化発展させている生徒もいるが、多くは与えられる学習にとどまっている。 ・気持ちのよい挨拶ができるようになったが、一部の生徒に思慮のない言動や服装違反が見られる。 ・部活動の加入率は高く概ね活発に活動しているが、高い目標を持ったけじめある練習や部室管理に関しては改善すべき点がある。 ・生徒に自ら範を示し、生徒の心に火をつけようと努力している職員がいる。 ・多くの職員が具体的項目の実現に向けてアンテナを高くして分掌学年の仕事を推進しようとしている。	・生徒が身につけるべき学力の到達目標を学年ごとに明確にし、学年集会など折に触れて徹底する。 ・生徒の学びが深化発展するよう、学校行事(講演会)等を戦略的に計画実施する。 ・思慮のない、利己的な言動に対しては、毅然とした指導を行い、生徒自らの行動が他に与える影響について深く考えさせる。 ・生徒会執行部や生活環境委員等を推進役とし、生徒の主体的な活動を育成し、環境整備、規律徹底を推進する。 ・部室管理や部活動時間の遵守を顧問と協力して推進し、部活動と学習の両立を図る。 ・学年会、分掌部会、教科学年主任会等で分掌、学年のホットな課題を取り上げ、協議をかさねて早期解決をめざすとともに、職員間の連携を今まで以上にすすめる。			
	「アクティブラーニング (能動的学習)」の研究推進	・生徒の学びがテストや大学受験といった実利的目的を越え真理探究といった高次なものとなっている。さらに、生涯にわたる学びの意義や教科の魅力を理解し、学習が内発的・主体的なものとなっている。 ・昨年度研究推進してきた「協同的な学び」の理論を発展させ、「アクティブラーニング」の考えを取り入れ、指導力を高めるための教員研修に積極的に参加し、その成果が日々の学習指導に還元されている。	・生徒の学習が課題提出やテストなどに追われている傾向が依然としてあり、内発的・主体的な学習になっているとは言えない部分がある。 ・研究授業への参加が十分とは言えない。また、教員研修の成果が日々の学習指導に十分に還元されていない。	・職員研修等を通して、生徒の学びが内発的・主体的なものとなるようにする。 *年度の初めに「アクティブラーニング」に関する理論と概要について教員研修の場を設け、理解と意識の向上を図る。 *推進教科を設け、先進校教員との示範授業・研究授業・授業研究会を通して指導力の向上を図る。(地歴・数学・理科・芸術) *県が主催する研修にも積極的に参加し、その内容を教科内あるいは全職員で共有し日常の授業で活かす。 ・校内研究授業を活性化するなど、校内の教育資源を最大限活かす努力をする。 ・「アクティブラーニング推進チーム」のミーティングを適宜行い、計画の進捗状況を確認するとともに、分析と評価を行い、課題の解決を図る。 ・アドバイザーを委嘱し、中間評価・最終評価をはじめ年間を通して本校の取り組み全般の改良改善を図る。			
2. キャリア 教育の充実	進路指導 力の向上	・全職員が「倉吉東高校のかたち」に基づいて、学校生活のあらゆる場面を通して、生徒の意識が「今・自分・依存」から「未来・社会・貢献」へと向けられるような生き方指導を行っている。 ・全職員が進路指導に関する適切な知識や技能を習得し、3年間のどの段階においても、適切な指導を行っている。	・多くの生徒が視野を広げ、適切な進路目標を立てているが、一部には依然として意識が社会や貢献に向けられない生徒も見られる。 ・各学年の進路検討会など職員研修への参加者は増えたが、発言する教員は限られており、個々の教員が持っている進路指導の知識や技能が十分に共有できているとは言えない。	・全職員が授業や進路指導だけでなく様々な場面を通して、本校の教育理念の生徒・保護者への浸透を心がけ、生徒が受験を通して自らを高め、社会にかかわろうとする意識が高まるよう取り組む。 ・職員研修での積極的な意見交換を促すほか、職員一人ひとりが日々の取り組みを通して進路指導に関する情報を受発信できるよう努力する。 ・本校教員が鴨水館生の進路指導を日常的に行うことによって進路指導力を高め、本校生指導に生かす。			
	中堅・難関 大学合格 者数の発展	・中部地区を代表する進学校として、生徒・保護者・中学校などからの期待にふさわしい実績を維持し、さらなる向上が期待できる。 ・国公立大学現役合格者数125名以上。 ・中堅国公立大学以上現浪合格者数70名以上。 ・難関大学現浪合格者数20名以上。 ・東京大学現浪合格者数5名。	【国公立大学現役合格者数】 H22年度157名 H23年度145名 H24年度140名 【中堅国公立大学以上現浪合格者数】 H22年度67名 H23年度66名 H24年度52名 【難関大学現浪合格者数】 H22年度16名 H23年度21名 H24年度21名 【東京大学現浪合格者数】 H22年度6名 H23年度3名 H24年度2名	・1年次から志望校指導を行い、適切な進路目標を設定させる。 ・国数英の基礎力を定着させるための1年次における初期指導を充実させる。 ・各生徒の苦手科目の学習法を点検し、効果的な学習法を身につけさせることによって、3年次には全ての生徒にCTに対応できる学力を保障する。 ・鴨水館生のデータを活用し、本校生指導の精度を高める。 ・二次試験に必要な力をつけるために、補習授業や課外の内容を精選し、必要ならば習熟度別などの工夫をこらす。 ・卒業生に接したり、県内外での難関大合宿などに参加することで、目標達成の意欲を高め、具体的な方策が得られるよう指導する。 ・東大志望者のチーム力を高めるとともに、三校合同講座などを通して校外からも刺激を受けながら、模試や補習授業・課外などで具体的な指導を行う。			

年度当初					評価結果		
評価項目	具体的項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	次年度へ向けての改善方策
3. 積極的な活動の創成	活動創成と人間関係力・社会的自己実現等、育成したい生徒像の具体化	・全ての生徒が自らのリーダーシップを自覚し、常に創造的な態度で生活している。	・リーダーの資質を持っている生徒は少なくないが、日常的に発揮する場面が限られており、創造性を十分に発揮できていない面がある。	・生徒会活動をより活性化させ、学園祭や国際高校生フォーラムなどの行事、日常的な委員会活動を通し、リーダーシップを発動できる場面を数多く設定する。また、それらの行事が例年通りで終わらないように、生徒の創造性を十分に発揮させる。			
		・生徒自身が社会に広く関心を持ち、社会的課題に対し当事者意識を持っている。 ・自分や社会の将来に希望を持ち、今現在という時に充実感を感じながら、真剣に日々の生活を送っている。	・社会的に逸脱した行動をとる場面はほとんど見られないが、よりよい社会にしていこうとする態度の育成が不十分である。 ・自己の能力を少しでも伸ばしていこうとする生徒が多くいる中で、自らの持つ資質に自信が持てないまま、学校生活に消極的になっている生徒もいる。 ・概ね計画性をもって自らを律しながら生活できているが、将来への不安や見通しの悪さから、今現在を充実させきれない生徒がいる。	・学園祭におけるプレゼンテーションコンテストの内容充実や、ボランティア活動の自主参加の拡大を図り、また日常生活においても、交通安全指導や服装指導を通し、自らと社会との密接な関わりを意識させる。 ・生徒会行事や部活動、クラスの係活動などを通し、人の役に立つことの喜びを味わわせ、自らの存在に肯定的な感情を育てる。また、教育相談を充実させ、生活に消極的になった生徒に対し、自分が出来ることを少しずつ達成させていくことによって、自分への自信を取り戻させる。 ・学園祭や国際高校生フォーラム等の学校行事を生徒自らの手で計画、準備、運営させて行くことにより、見通しや段取りを大切にすることを育み、今現在の充実が未来を切り拓く力につながっていくことを経験させる。また、そこで経験したことや学んだことを言語化する活動を通し、それからの日常生活に生かしていけるような力とする。			
4. 広報連携力の強化	積極的な広報活動による地域や中学校からの共感の促進 育友会・同窓会との連携促進	・地域の方や各中学校関係者に本校の教育方針・教育内容が十分理解され評価されている。 ・全職員が本校の教育方針・教育内容について適切な説明をすることができる。 ・本校が各中学校の実態を十分理解しており、生活指導・学習指導等について、中学・高校の連続性がある。 ・中学教育を支援するため、本校が持つ教育資源を積極的に提供している。 ・本校の進路指導や大学の現状に対する保護者の理解が深い。	・本校の教育方針・教育内容について、中学校教員や生徒、保護者の理解が不十分な点がある。 ・管理職だけでなく、多くの教員が中学校訪問を行い、本校の教育について説明をしている。 ・倉吉東中学校と「スクラム教育推進事業」を行い、英語・数学における連携を深めているが、全教科・領域の連携に至っていない状況にある。 ・「中学生英語ブラッシュアップ講座」を実施し、中学レベルを超えた英語力の育成を支援している。 ・「中部地区小中学校・高等学校連携推進事業」によって英語・音楽・体育の教員派遣を行っている。 ・保護者に対しては、8月、2月の進路講演会の他、11月に大学見学会を実施して、情報提供を行っている。	・本校のHPを充実させ、教育活動を適切に外部へ情報発信できるよう努める。 ・学校案内を刷新し、中学校への広報力を強化する。 ・中学生を対象とする高校説明会を充実させる。 ・中学校主催の説明会や進路学習の機会を利用して、教員が積極的に中学校に出向き、本校への理解が深まるよう工夫する。 ・本校へ学校訪問等に来られた外部の方への説明を、キャリア形成部や企画推進部以外の教員も行い、発信能力の向上に努める。 ・倉吉東中学校との「スクラム教育推進事業」を充実させるとともに、公開授業等を積極的に利用して、中高連携の促進に努める。 ・「中学生英語ブラッシュアップ講座」への参加拡大を促進すると同時に、中学教員の参加（参観、ティームティーチングなど）を呼びかける。 ・部活動でも中学と合同練習を行うなど、可能な範囲で交流を行う。 ・中学校出前授業に積極的に応じる。 ・保護者対象の進路講演会や大学見学会の参加者を増やし、内容を充実させる。			
5. 定時制教育の充実	積極的な生徒指導 進路保障と学力の向上	・自己の進路目標を決め、その実現に向けて主体的に学習や行事等に取り組んでいる。 ・課題に真面目に取り組み、提出物の期限が守られている。 ・わかりやすい授業と個々の実態に応じたきめ細かい指導がなされている。 ・生徒が心身ともに健康で、主体的に学校生活に取り組み、規律とけじめのある基本的な生活習慣を確立している。	・3年次生11名のうち、現在、進学希望3名、就職希望4名、未定者4名だが、進学・就職希望者にしてもまだ流動的で、具体的な将来像を描いたり、進路を決めかねている生徒が多い。 ・中学校で不登校経験を持つ生徒や、進路変更で転編入した生徒が多く、まず登校させレポートを提出させることの指導が必要な生徒が多い。 ・基礎的な学力・能力が不足しているので、理解するのに時間がかかる。 ・生活環境面などで問題を抱え、主体的に学校生活や学習に取り組めない生徒が少なくない。	・ハローワークやキャリアアドバイザーとの連携を密にし、正規採用に向けて職場訪問や書類作成・面接指導等を計画的に行う。 ・卒業生等との座談会や進路講演会に加え、社会人としてのマナー講習会等を効果的に取り入れ、進路意識の向上を図る。 ・レポート作成のための時間や場所を設定したり、個別指導を行う。 ・定期的に情報交換会を持ち、生徒個々の状況を職員間で共有して連携した指導を行う。 ・授業公開・授業研究への参加者を増やしたり、他校視察をして授業改善に生かす。 ・1年次から基礎学力定着の学習を取り入れるとともに、課外を計画的に実施し、進学・就職それぞれの生徒に対応した指導を行う。 ・積極的に面接や家庭訪問・職場訪問を実施して生徒一人ひとりのおかれている生活状況等を把握し、保護者と連携して進路実現に向けたきめ細かい指導を行う。 ・今年度新たに2年次生の進路意識と勤労観を涵養するため、県外へ研修旅行を実施する。			

○ 評価基準

- A 本校の現状を大幅に改善し、目指す姿にほぼ到達した。課題は少なく、今後改善していく見込みがある。数値的目標を掲げた項目では、最低でも80%以上になっている。
- B 課題はあるが、改善に向けた取り組みが効果を上げつつある。現状に満足する状態ではないが、一定の成果があり、今後改善していく見込みがある。数値的目標を掲げた項目では、60%～80%の範囲内になっている。
- C 課題を解決するにはまだ多くのステップがある。一定の成果はあがっているが、さらなる努力が必要である。数値目標を掲げた項目では、40%～60%の範囲内になっている。
- D 改善に向けた具体方策の効果が上がらず、本校の現状が改善されていない。依然として課題が多く、今後の改善があまり見込めない。方策の全面的な見直しが必要である。数値的目標を掲げた項目では、最高でも40%未満である。